

学界消息

史学研究会關係

二月例会 二月一日(土) 於楽友会館

「封建都市の諸問題」

近世初題における都市と商品流通

脇田 修

城下町に関する二、三の地理学的考察

矢守 一彦

ヨーロッパ中世都市の諸類型 会田 雄次

(特別講演)

モスクワ・ロンドン・ベルリン見たまま 田村 実造

田村理事の帰朝 本会理事、田村実造氏は、

ミュンヘンで開かれた第二四回国際東洋学者会議(八月二八日~九月四日)、及びマールブルクでの第十回シナ学者会議(九月五日~十二日)に出席、その後ヨーロッパ各地を視察して十二月十九日帰国された。

藤岡理事の外遊 本会理事藤岡謹二郎氏は、

文部省在外研究員としてロンドン大学へ留学のため、旧臘二四日羽田発日航機で出発された。帰朝は本年末の豫定。

国史関係

日本史研究会大会 於立命館大学清心館

總會及び個別発表 十一月一六日(土)

古墳の終末について 榑崎 彰一

在家の成立について 林 陸朗

名に関する二・三の問題 松岡 久人

本願寺教団発展の基盤 宮川 秀一

近世在方における市について 安藤 精一

日本帝國主義の成立と特質に関する問題 小山 弘健

共同研究発表 十一月一七日(日)

大会テーマ「歴史における諸割期の評価」

(古代) 大化改新論 直木孝次郎

(中世) 南北朝室町期の農民生活 上島 有

(近世) 地主制に関する二・三の問題 朝尾 直弘

(近代) 近代天皇制の割期 井上 清

仏教史学会學術大会 十一月一六日(土) 於花園大学

第一部個別発表

四方仏史の特殊研究 齋藤 彦松

中国仏教成立における「律」の位置 鈴木 啓造

劉宋仏教の展開 大川富士夫

変革期の禪宗の發展 笠間 達男

四国における鎌倉仏教の發展 千葉 乘隆

弘法大師の声字実相義 大山 公淳

「干闥国懸記」の史料としての出發点 佐藤 長

関山慧玄の生誕地 荻須 純道

第二部共同課題仏教史における時代区分 牧田 諦亮

中国 井ノ口泰淳

インド 重松 明久

日本 古代-中世 北西 弘

中世-近世 田村 円澄

近世-近代

真宗史研究会大会 十一月一七日(日) 於大谷大学

第一部個別発表

畿内真宗教団の基盤をめぐって 石田 善人

一向一揆の基礎構造 井上 鋭夫

「悪人正機」の歴史 柏原 祐泉

番方講について 津本 了学

親鸞の思想の展開過程 松野 純孝

第二部共同課題「蓮如以前」

報告者 梅原 隆章

宮崎 円澄

公開講演会 鎌倉仏教について

十一月一八日(月) 於龍谷大学

親鸞における布教の問題  
親鸞の護國思想  
十二月例会(二月一日(土))  
藤島 達朗  
笠原 一男

荒川庄における中世と近世  
熱田 公  
上田 正昭

國県制批判  
井上光貞氏の説をめぐって

東洋史関係

東洋史旧制大学院研究発表会

十月例会 十月十二日(土)

均田制関係古文書について  
西村 元佑

高麗武臣政治の性格  
李 大熙

華陽園志に見える大姓  
狩野 直禎

十一月例会 十一月九日(土)

曇鸞の浄土教  
善峰 憲雄

明代北直隸に対する羣牧体制の崩壊と一  
谷 光隆

条鞭法の成立  
井崎 隆興

元朝の酒税  
間野 潜龍

明代の家規家訓

東洋史談話会例会  
十月十九日(土) 東洋史研究室

最近の殷墟についての話題若干  
伊藤 道治

十一月十九日(火) 史学科第二教室

中国学界訪問記  
東方学会京都支部  
一月二十一日(火) 人文科学研究所本館講堂  
重沢 俊郎

ヨーロッパ及びソ連の東方学  
田村 実造

人文地理関係

日本地理学会・人文地理学会共催秋季大会  
十一月三・四日 立命館大学

(第一日研究発表・第二日見学旅行)

谷口集落の性格についての一考察  
中島 義一

高麗の飯能を中心に  
長岡 格

売薬行商人の町——富山県和合町四方——  
植村 元覚

顧客流動圏からみた場末商店街の性格  
大都市近郊における果樹園芸 安藤万寿男

——千林商店街を例として 太下金二郎

東京における繁華街の都市地理的研究序説  
今朝洞重美

京都市における同業者町の立地  
藤本 利治

——室町織物問屋の場合 樋口 節夫

名古屋のCBD  
平城京の内部構成に関する若干の問題 山田 安彦

日本の初期農業集落と共同体の構造  
小野 忠熈

沙華公園の位置と麻羅奴族の分布  
木村 宏

信仰門前集落の構造  
浅香 幸雄

大和における「うけづみ」の分布  
梅崎 秀治

内陸水路としての鬼怒川の特質  
奥田 久

明治前期、九州を中心とする物資交流の  
地域的構造について 黒崎 千晴

近世の紀州における行政村の集落構成  
近藤 忠

——日高川流域について

近郊酪農発展に関する若干の問題  
石原 照敏

——東京及び大阪近郊  
由比浜省吾

蘭業における蘭草の流通について

カロリー計算による下北郡及び田名郡町  
の土地生産力とその批判 浅井 辰郎

大都市近郊における果樹園芸  
村木美枝子

甲府盆地における桑園と果樹園の立地関係  
斎藤 叶吉

低湿地に於ける農村集落の構造一例  
——竹田川自然堤防上の水居 吉田 森

隠岐牧畑の牧場化について 石田 寛

北但馬の焼畑経営山村に関する一二の考察  
佐々木高明

阿武隈山地の林業労働  
高木 秀雄

入会費用林野の解体と所謂「共同体」に  
ついて 小栗 宏

(以下八四頁へ)

地域で行われたらしいことをあげることが出来る。こういつた点では李濟氏の使用する資料が限られたものであるだけに、殷の文化の多様性を認めつつも、やはり西の彩陶に対して、対立するものとしての東の黒陶の影響を強く考えようとする点は、訂正を必要とするであろう。然し銅器だとか、甲骨文などの出現のもつ意義は、鄭州の殷の遺蹟の発見によつて、小屯より多少さかのぼることが明らかになつたけれども、而かも鄭州のこれらの遺物がやはり完成形しか見当らないことを考えると、依然として殷文化の大きな問題として残されているのである。そういつた点で、李濟氏の提出した殷の六つの要素の組合せが、何時何処で、どのような理由から出来上つたという問題は、研究者が常に考えていなければならぬ問題である。最後に、本書にはすぐれた殷虚遺物の写真が豊富に揃えられていることを附記しよう。

なお本書には多数の参考文献があげられているが、その目録に見られない李氏の研究で、本書と関係の深いものをあげておく。

殷虚器物甲編陶器上冊一九五七年、台北  
殷虚白陶發展之程序（歴史語言研究所集刊第

二十八本下冊）

殷虚有刃石器図説（中央研究院歴史語言研究所集刊第二十三本下冊） 跪坐蹲居与箕踞

（歴史語言研究所集刊第二十四本）

Notes on some metrical characters of calvaria of the Shang Dynasty excavated from Hovchachung Anyang（中央研究院院刊第一輯、一九五四年、台北）

（本文五九頁図版五〇）——伊藤 道治——

（八六頁のつづき）

山村性格の推計学的考察

——大井川上流井川村——

陸前大島の半農半漁構造

日本沿海集落の一ケース

志摩半島真珠養殖業における工業立地的考察

オホーツク海沿岸の水産業

以西遺洋底びき網漁業根拠地の変遷

新漁法の導入によつて完全組合自営を

採用した漁村

手漕和紙工業の残存と立地

水車動力から近代の動力への推移にみられた二三の特相

末尾 至行

佐々木清治

大村 肇

山岡 政喜

井上 啓男

伊藤 久雄

土井 仙吉

信州諸盆地における工場工業の受容

千葉 徳爾

江東地区工業の地域構造

菊地 一郎

東北地方の行商活動

高橋 幹雄

宗教受容における地域性の問題

——群馬県のキリスト教

徳久 珠朗

近代的交通機関の地域的類型

堀川 侃

サンパウロにおける日本人人口の変貌

岸本 治子

啓蒙時代の地理意識

——ロバートソンと印度

イランにおけるカナットについて

小堀 巖

和歌山市大谷・大谷古墳の調査

十二月十五日——一月十三日。京都大学

樋口隆康助教授を主査とし、考古学教室

員、国学院大学金谷克巳氏が発掘に参加し

た。長さ二・九米、幅一・六米の凝灰岩製

組合家形石棺を主体とする前方後円墳で、

棺内はすでに盗掘されていたが、金・銀・

金銅製装身具、玉類、挂甲、直刀などの残

片を残し、棺外の両端部からは、木箱に収

めた金銅あるいは鉄製の馬具、短甲、矛な

どが発見された。